



2005-2006年度
国際ロータリー第2640地区

第7組
INTERCITY MEETING

報告書

目次

歓迎のご挨拶

プログラム

出席者(地区役員)

部門別会議

職業奉仕委員長会議&新入会員のセミナー

ロータリー財団委員長会議

米山奨学委員長会議

全体会議

財団学友によるチャリティコンサートと懇親会

とき 2005年10月29日(土)

ところ ポートサービスセンタービル
ホテルサンルート関空

第2640地区IM7組

高石RC 忠岡RC 高師浜RC 和泉南RC
大阪金剛RC 羽衣RC 和泉RC 泉大津RC

ホストクラブ 泉大津ロータリークラブ

歓迎のご挨拶

泉大津ロータリークラブ
会 長 松内 暲郎
IM担当委員長 嶋田 繁

「天高く馬肥ゆる」大変気持ちの良い季節となりました。

先ずは第7組の8クラブの会員の皆様方、本日は2640地区第7組のインターシティ・ミーティングにご出席下さいまして、ホストクラブを代表し心から歓迎を申し上げます。

平尾ガバナーをはじめ歴代のパストガバナーの皆様、ガバナー補佐、地区役員の皆様方、本日は大変ご多忙のところご臨席下さいまして、心から御礼申し上げます。

既にIM委員長が皆様方のクラブ例会で説明させていただきましたように、今年度のIMは親睦を主眼に開催させていただきます。今年度のテーマは「超我の奉仕」ですが、IM7組のテーマは敢えていうなら「親睦」という事に致したいと思えます。

お配りいたしましたご案内にも書いてありました様に、近年各クラブとも会員数の減少に苦慮しており、IM参加者も年々少なくなつてきております。そのような中で、本年度は何とか第7組のインターシティ・ミーティングに活気を取り戻したいと、今までと趣向を変えまして、皆様楽しくご歓談して頂くように、財団学友の「チャリティ・コンサート」と「懇親会」をメインにさせていただきました。初めての試みで、不行き届きな点多々ある事と思えますが、ロータリーの友情に免じてお許し頂き、どうか最後まで充分にお楽しみ頂きたいと思えます。本日はどうも有り難うございます。

[HOME](#)

プログラム

第1部 部門別会議 (ポートサービスセンタービル)			
時間	会議名	備考(敬称略)	
14:00~14:50	ロータリー財団委員長会議	カウンセラー	小島PDG
	米山奨学委員長会議	カウンセラー	大丸PDG
	職業奉仕委員長会議	カウンセラー	平尾DG
	新入会員のセミナー		
第2部 全体会議 (ポートサービスセンタービル/きららホール)			
時間	事項	備考(敬称略)	
15:00~15:45	開会宣言	IM担当委員長	嶋田 繁
	点鐘	ホストクラブ会長	松内 暲郎
	君が代・奉仕の理想 斉唱	ソングリーダー	前田 佳世
	歓迎の挨拶	ホストクラブ会長	松内 暲郎
	来賓、DG、PDG、地区役員の紹介	IM担当委員長	嶋田 繁
	ガバナー挨拶	2640地区ガバナー	平尾 寧章
	ゼネラルリーダー挨拶	ゼネラルリーダー代行	中島 治一郎
	参加クラブ出席報告	登録委員長	高寺 壽
	次回ホストクラブ会長挨拶	高石RC会長	奥野 禎
	閉会点鐘	ホストクラブ会長	松内 暲郎
第3部 財団学友によるチャリティコンサートと懇親会 (ホテルサンルート関空)			
16:00~16:40	ご挨拶	IM担当副委員長	城村 芳英
	財団PR	パストガバナー	小島 哲
	チャリティコンサート	財団学友	佐々 由佳里
		財団学友	前田 佳世
16:50~18:30	懇親会		
	乾杯の音頭	パストガバナー	平岡 正巳
	閉会の挨拶	ホストクラブ副会長	深井 喜一
	手に手つないで	ソングリーダー	前田 佳世

— HOME —

出席者(地区役員) 敬称略

ガバナー	平尾 寧章
ガバナーエレクト	三軒 久義
パストガバナー	大丸 昌讓
〃	平岡 正巳
〃	中島 治一郎
〃	小島 哲
ガバナー補佐	樫本 主税
〃	萬野 俊史
副代表幹事	林 孝次郎
財団奨学金委員長	岩本 行弘
GSE委員長	坂本 順一
財団奨学金委員(学友担当)	川端 健夫
米山奨学事業委員長	神谷 尚孝
米山奨学事業委員	松下 光春
職業奉仕委員長	桃田 隆彦
職業奉仕副委員長	角谷 浩二
職業奉仕委員	松生 満
職業奉仕委員	丸山 信仁

[HOME](#)

職業奉仕部門会議（職業奉仕委員長会議と新入会員のセミナー）

ロータリークラブの一番の特徴は、職業人が集まっているということでございまして、定年退職されて継続してロータリークラブに所属されている方もいらっしゃいますが、基本的に職業分類に基づいて、ロータリーの所属は許されていますから、たとえば今のニートとか、フリーターはだめです。皆さん方は、ロータリーに入会したんじゃないで、ロータリークラブの職業分類に基づいて入会したと思ってください。



1905年ロータリーがシカゴで誕生したそのときは、とにかく友達がほしかった。つまり自分たちだけが良かったらいいというクラブだった。その当時ロータリークラブの創設者でありましたポールハリスある友人を勧誘しましたところ、こんな自分たちのことだけを考えている団体はだめだ長続きしないじゃないかということと言われるわけでございます。そこで初めてシカゴクラブに世のため・人のためという概念ができるわけでございます。1908年に入会しましたアーサーフレデックスシェルドンという方が世のため人のためという言葉に奉仕・サービスという言葉に集約していったわけでございます。

たとえば奉仕部門というのは4つございまして、クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・皆さん方もロータリーに入られる前にこの社会奉仕ということをお聞かせしたことがあると思いますが、道端のごみを拾うと社会のためになりますから受益者がだれかということでお聞かせします。そして、クラブ奉仕ということはお聞き分らないと思います。私も正直分かりませんでした。ある先輩にクラブ奉仕って何って聞きますと、クラブのためになることやっていきます。たとえば会員増強委員会がございまして、素晴らしい会員の方が入会いたしますと、クラブにいい影響を与えます。そして、クラブのためになる。だから会員増強委員会はクラブ奉仕委員会の中に入っております。たとえば、プログラム委員会がございまして、皆さん方は職業人でございまして、遊びにロータリーに来ておりません。まさしく仕事の合間に調整をされて時間を作られてロータリーの例会に来られる、当然その中で何かいいものを感じたいと思うわけでございますから、やっぱり例会に来てよかったと思わす。そういう例会構築をするのがプログラム委員会の仕事でございますから、当然プログラム委員会はクラブみんなのためになるクラブ奉仕の部門に入っている。

じゃ、職業奉仕はなんぞや？ということをお話したいと思いますが、先ほどお話ししましたようにたまたまロータリーの原点が現在定款などが変わってきておるのでございまして、当初は1業者一人でした。つまり、業種別を代表してそのクラブに入会を許されている。つまり、業界人・職業人の集まりだから自分たちの職業に誇りを持ってそして、責任を持ってそれぞれの職業を通じて社会の奉仕貢献して尽くしていこうもの考え方をロータリーでは職業奉仕といっているわけでございます。

ロータリークラブは単なる寄付団体ではございませぬ。単なる奉仕団体でも、単なる慈善団体でもない。ロータリークラブは奉仕をする必要性もない。じゃ、奉仕は一体だれがするか、奉仕はロータリアン個人がするか、じゃクラブはいったい何をやるかそんなロータリアンを育てる教育機関がロータリークラブであります。ロータリーが単なる寄付団体ではないということでありまして、たとえば寄付団体でありましたら、毎週の例会は必要ないのでございまして、月一回の月例でも、年一回の総会があったらそれでいいわけでございます。でも寄付団体でありましたらその食費を寄付にまわすことができますが、ロータリーはそういうことはいたしません。あるいはただたんなる奉仕団体でも、ただ単なる慈善団体でもない。もし、ただ単なる奉仕団体やただ単なる慈善団体でありましたら、そういうことがお上手な方に10年でも20年でも死ぬまで会長・幹事をやっていただいたらいいわけでございますがロータリーは基本的に毎年役がかわります。ロータリーはすべての職務ポジションがころころ変わって行くいろんなものを経験していただき、そして学んでくださ

い、そして築いてください。

そういうことを考えてロータリーはポジションとしてそういうことをしているわけでございます。皆さん方の会社は毎年社長が替わる会社はないわけでありますが、ロータリーは毎年役員が変わります。それは、いろんなポジションを経験してくれというわけでございます。ロータリーはいい人を作って人を育てるそれがロータリーということを考えていただけたらロータリーが何かということが非常に分かりやすいと思います。

ロータリークラブというのはいろんな道を行き歩いてきておりまして、最初申しましたように1905年自分たちだけが良かったら良いというようにできたロータリーなんですけれども、世の為人のためになんかせんといかんのやないかと一気に倫理のほうに落ちていくわけです。そのときに皆さん方に言う標語というのは、サービスノットセルフつまり自分までゼロにして奉仕を背ないかと一気に倫理のほうに一時触れるわけですが、フレデックスシエルドンやポールハリスはその考えをとっておりません。ロータリーは宗教倫理ではない実業倫理だ。1921年に採択されましたのは今年の標語でありますSERVICE Above Selfつまり、まず自分というものの上にサービスがあるというものでございます。

昭和6年に横浜ロータリーにいさかさんという方がおられまして3つのことを言っています。

- 1 番目はロータリアンは約束をまもるべし。
- 2 番目はロータリアンはワインを送る事なかれ。
- 3 番目はロータリアンは慈善事業にはげむべし。

今年の先ほど言われましたSERVICE Above Selfというのですが職業奉仕の理念を持って世界に貢献するのが職業奉仕の理念であります。

[← HOME →](#)

< 部門別会議 ・ ロータリー財団 >

R財団国際親善奨学生申請を1月ごろから開始し、ポスターと申請を送っていますが、最近ではインターネットでの申し込みが多々あります。

申請の種類は3種ございます。

1. 6ヶ月文化研修の為の奨学金申請。(上限一万九千ドル)これを希望されるかたは語学学校に行く必要があり、ホームステイが原則です。基本英語以外の学校とさせて頂いておりましたが、3ヶ月等の期間の短い語学学校(英語の場合のみ)に行かれないと言われる方にも同様に考慮していきたいと考えます。

2. 1学年度奨学金で上限が2万6千ドルで大学または大学院で1学年度約9ヶ月間の学習。

3. 2年間奨学金では、大学院で学位の取得が原則で1年間で一律1万3千ドルで使用しなくても出ますが、基本これでは足りません。

支給対象は往復の交通費・授業料・下宿費等でそれ以外の必要経費を含めて上限まで可能です。

応募書類は奨学金申請書と小論文・大学の成績証明書を出して頂きます。クラブ推薦を得て、地区財団奨学金委員会は筆記試験と面接を行い合否は決定されます。

一番大事なのは語学力です。大学や大学院でいきなり授業を受けるわけですから相当の語学力がないと授業についていけません。また学校を斡旋しているわけではありません。自分で留学したい学校を探し入学許可をとって頂きます。

地区は選考に合格した資料をロータリー財団本部に資料を提出しますと、奨学生候補にここを受けても良いですよという通知が本部より来ますので、奨学生候補者は願書を提出し試験を受けて頂きます。入学許可が出ますと奨学金はあります。

推薦されたクラブの金銭的な負担は一切ございません。推薦クラブの負担は地区試験に合格しますとあとオリエンテーション開始されます。必ずホストカウンセラーの方を指名頂きたい。これは日本で1名、留学先で1名の計2名が義務となっているからです。



<質問> 大学院の方でしたら1年間・13,000ドルで、あと足りない分は自己負担との事ですが、平均的な自己負担額はどんなもんですか。

<回答> それは国によって随分異なります。たとえばドイツなんかは外国人は、無料みたいところもありますから残金がでます。しかしイギリス、アイルランドは相当高いです。また公私の学校によって変わってきます。

今年のGSEの受け入れはアメリカの6440地区でシカゴ中心としたところですが、受け入れですが、今回はIM3組・5組・7組・6組(半分)・2組(半分)に担当させて頂きました。

団長さんは堺泉ヶ丘RCの吉野さんです。職業は貿易で地区財団奨学金委員会に所属して頂いていた方で英語も堪能です。過日地区GSE団員の面接試験を行い、高等学校の英語の先生に絞らせて頂いて募集をかけました。羽衣RC推薦の岸和田高校の田中さん、高石RC推薦の高石高校の岸本さん、橋本RC推薦の橋本高校の小原さん、新宮RC推薦の新宮高校の岸本さんの男子1名と女子3名となりました。

<質問> 受け入れの時の費用はどうなりますか？

<回答> 費用は1日一人1万円の助成を予定しています。1つ7組のみなさんをお願いしたいのが、来た人の職業研修はどういうところを見せたらいいのが現在のところ分かりませんが、例えば警察関係の方がお見えになったら、大阪府警のほうをみたいでしょうし。

今までの例でいきますと職業研修は大阪に近いところがやってあげないと新宮や那智勝浦や串本あたりでは全く候補地がない場合があります。

もう一つ是非お願いしときたいのが、ホームステイをお願いしているクラブは、クラブの誰のどこに来てホームステイをやっているってことをクラブの週報か何かで知らせてPRして欲しいです。クラブの例会に呼ぶこともあるかと思いますが、団長入れて一人5分位喋って頂くことはやって頂きたいと思います。

最後になりましたが、この場をお借りしましてこの地区から3名GSEの団員の応募頂きましてありがとうございます。

[← HOME →](#)

米山奨学部門会議

・大丸カウンセラー

最近、原因は経済不況による会員の減少等により、寄付金が減少しております。それに伴い奨学生の人数も減ってきています。今年新しい改革の年で、いろいろ少し変わってきております。

制度改変には大きなポイントが2つあります。

日本に来られないような経済的に貧しい国の学生に奨学金を利用していただく。現地採用のロータリー米山奨学制度は来年から始まり、今年からその選考に入っております。まずベトナムからで、元米山奨学生の方に協力いただいで進んでおります。

地区奨励ロータリー米山奨学制度を採用する。これは地区で決めるもので、短期大学、高等専門学校、専修学校、専門学校、専門課程の学生にも支援したいと思っています。ただし、これは米山から割り振りのある地区の奨学生数の20%までです。7万円の支給になります。

それから、クラブ米山があります。これもこの20%の中に入めることができます。

・神谷委員長

米山の寄付金で一番良かったのが1996年の20億円超で、2004年は14億4000万円になりました。2006年度からは支給金額の制度が変わります。

今までクラブに3万、クラブのカウンセラーに2万という補助金が、2006年度からはクラブに4万となり、全体で1万円減額になります。



質疑応答

【羽衣RC】

当クラブでは今年韓国からの方を迎えています。お世話をしていてカウンセラーの方だけでなく、会員皆様に米山の意識を持っていただく時間を持ちたいと思っております。そうすると米山奨学生をもっと身近に感じられるのではないかと思います。

【和泉RC】

当クラブも寄付の金が減ってきている状態です。私は米山も何回か担当させて頂きましたが、今大きな問題があると思っております。なぜ中国の方に偏った形になっているのかと。中国にはロータリークラブもありません。そして、それほど経済豊かな国です。何名か当クラブで預かりましたが、中国の学生は経済的に豊かで、米山に感謝というよりも何か小遣いをもらいにきているような気がします。クラブで米山の学生の追跡調査をしました。自国に帰って日本のために何かしているかと言いますとあまりしていない。中国よりむしろ台湾や香港の方が日本に対して非常に良いイメージを持っています。現状に合った改革をしなければ、どんどん衰退していく気がしています。

大丸さんが言われたベトナムの現地選考制度は非常に画期的で、新しい米山の方向性を示しているような形が致します。本当の意味で米山を必要としている国々に対して手を差し伸べるといふ形であれば、会員の意向や情熱も変わってくる。変われば、寄付額も上がると思います。非常にありがたいと思いました。

高石RCさんは、米山の寄付を寄付金ではなく、奨学金という名目で下半期の会費に組み込み請求しているそうです。

・神谷委員長

日本にきている留学生の60%超(全国平均)が中国人です。関西圏ではもっと高くなります。一国で50%を超えることのないように選考の際には厳しくしているんですが、成績は中国の方が特に優秀です。

・大丸カウンセラー

米山では、大体一国50%以内でそれ以上はいけないとなっています。当地区では韓国や中国以外の方がおればと思いますが、悲しいかな東南アジアの各国からの留学生が少なく非常に選考に苦労しています。

中国の場合5~6年前まで採用はなかったですが、香港が返還になるので急激に増えました。今、上海と北京でロータリーの仮クラブができ、それを本当のクラブにするべく接触をしている最中です。

【泉大津RC】

泉大津RCは阪南大学に通っている台湾からの方をお世話しています。彼女は大変明るく、クラブの行事にも積極的に参加してくれ、ロータクトにも入会しています。富田林RCからの卓話依頼も「行きます」というぐらいの活発な子です。クラブのどなたでも話ができるし、米山の嫌いな方とでも話ができる雰囲気があります。

寄付については、普通寄付は会費の方から徴収できますが、特別寄付金には頭を痛めています。何か方法と考えて、功労者表彰に近い方のデータを調べて、その方をお願いしている最中です。

今までも何名かお世話していますが、米山に選ばれた学生は裕福な子が大半で、中国から日本に留学できるということ自体が特に裕福でコネがある方が多いと思います。私も中国にもよく行きますが、こういう真面目な子が日本に来て勉強してくれたらよいという子もたまにいます。逆に、米山奨学生の中には悪いですが、中国も台湾の子もお小遣い稼ぎの感じがします。そこが残念であり、明るさがないのかもしれないと感じております。

・神谷委員長

米山に限らず財団でもそうですが、委員長さんが直接個人的に顔を合わせると、寄付が集まるというクラブがあります。

留学生の中には、一生懸命8年間働いてお金を貯めている方もいます。彼は36歳で兄弟が3名あり、日本にきて4年目でアルバイトをしながら生計を立てています。

当初、米山奨学会は戦争の償いから始まりましたが、優秀な学生、世界に、国に、社会に通用する学生を育てるという意味から段々と他の奨学金の留学生に負けないようにいうことで、変わってきたと思います。しかし、貧困なのか、裕福なのかは簡単に分かりません。

【大阪金剛RC】

私どもは中国の方でお預かりしています。彼女はアルバイトをしながら、確かにお金に苦労はしていますが、明るい子です。10月の米山月間には、卓話を心よく受けてくれ、苦労した中に日本人の優しさに触れた話をしてくれました。

私はロータリーに入会して2年8ヶ月で、今回初めて委員になりました。中々特別寄付の方が集まらなく、知っている方にはお願いはしますが、しかし偏ってしまいます。ロータリー財団の委員の人と双方で何らかの形でお金を集める方法はないかという話をしました。それで米山だけでなくロータリー財団と一緒に箱を作り、月に1、2回を財団と米山を合わせてご寄付を3000円以上お願いしています。一応どちらかにという希望がなければ、半分ずつ分けるつもりです。11月からやってみたいと思っていますので、報告させていただきます。

【和泉南】

私どもはベトナムからの女の子をカウンセリングしています。彼女もすごく真面目で日本人よりも礼儀正しく、日本語も上手で、今月は当クラブと、田辺RCと藤井寺しゅらRCで卓話をしました。卓話依頼が多く来ますが、クラブの方に来る分とガバナー事務所に来る分、本人に行く分と依頼方法が複雑です。本人は真面目だから全部いかないかという気持ちですが、窓口が1つになれば、非常に振り分けしやすいのではないかと思います。

クラブからクラブにくる分とガバナー事務所からうちの事務局に入る分とあるのでどちらを優先したらいいのか本人が混乱します。

・神谷委員長

10月の米山月間に卓話希望のクラブは直接交渉されているクラブもあり、ガバナー事務所を通じてのクラブもあります。私の方でも26クラブもあり、回数の多い方はお断りして、少ない方にはお願いするという形でさせてもらっています。中には個人的に話をした方が早いという方もいるのでルート1本化というのは難しいです。これから案内文書の書き方を気をつけ、本人の意志を尊重してやりたいと思います。勉学で本当に忙しい人とそうでない人とが見極められない。地区プログラムにも参加しない留学生が何名かいます。アルバイトをしないですむように我々が一生懸命お金を出して奨学金を作っているのだから半日ぐらいのプログラムは参加してほしいという気持ちはあります。その手立てとして今、メーリングリストを立ち上げようとしています。11月早々の立上げ予定で、これがあると地区の事務所から出してもらおうと一斉に伝わります。それで委員長さんあて、カウンセラーさんあてにメーリングリストのお願いということで米山奨学会のメーリングリスト開設の案内を事務局にお送りさせてもらっています。

【高師浜】

当クラブでは昨年韓国の方をカウンセリングしました。寄付金の問題ですが、普通寄付の問題では例年会費と同時に徴収をしていますので問題ないんですが、特別寄付についてはこの10年間大きな変動がありました。特に景気停滞、そういったことから必ずしも芳しい状況とは言えませんが、しかし、地区平均ぐらいは確保することを毎年しています。当クラブについては例年10月の米山月間に特別寄付をある程度集中的に努力して協賛して頂くという形をとりました。本年度につきましては今月はたまたま例会がなく第一、第二例会におきましてはほぼ昨年並みの90%の徴収を行い、特にあとの10%部分については本人にすでに了解を得ています。特別寄付についても前年度の実績は十分だと思います。できるだけ早い機会に地区の方にもご送金させて頂きたいと思っています。もっと多額の寄付を努力しなければいけないのですが、昨今の経済状況あるいは会員の減少を考えていかなければいけません。しかし、あまり無理をしますと特に新会員の場合は納得してもらうのに困難な面があります。現状を少しでもプラスにするような努力を考えながらこれからも奨学金の寄付に対応していきたいというような考えです。

【忠岡】

うちは人数が少なく、学生も受けていません。寄付の方ですが一般の方は集めていますので例年通りですが、ここ数年会員がかなり減ってきています。特別寄付に関しては大体今いらっしゃるチャーターの方が一回りしてします。お願いはしているんですが結果はあまりよくありません。どちらかということ去年から会員増強の方でクラブが必死な現状です。

【高石】

高石ではベトナムから男性の方で、羽衣の大学を出て今年から名古屋の方の国立大学へ進みました。優秀かつ真面目でクラブ行事にもどんどん参加されました。しかし、今年度から米山からはずれた学生は、アルバイトで今は忙しく、いかに米山から頂いていた十数万円のお金が本人にとって大きなものであったかと感じております。

特別寄付金については皆さん気持ちよく出しては頂いているんですが、長期欠席の方とか米山月間の時に欠席された方の数名がいつも払っていない形です。それで今年度から下半期の会費に入れようではないか、そうすることによって長期欠席の方も一律頂けるといふこと、また予算立てもできるので特別寄付金についてはそういう形でおこなっています。また、機会がありましたら米山奨学生をお預かりさせて頂きたいと思います。

神谷委員長

本当に皆様方、それぞれ工夫して頂いて地区の目標の2万円を何とかクリアできるようにということが分かりました。ありがとうございました。

制度改革により、新しく和歌山高等専門学校を指定校にできるようになりました。また、変わった学生が奨学生として迎えられるようなことと思います。

クラブ創立周年事業で、米山への寄付を考えて頂きたく思います。これには感謝状が用意されております。

メーリングリストについて、2006年のIT委員会にお願いしました。11月初めに立ち上がり、現奨学生については全員に協力してもらい、元奨学生で在日されている方は120名ほどおられるので、その方にもメーリングリストをご案内するようにしています。500名以上が米山奨学生として巣立っています。その中で音信を取れない方も大勢いますが、メーリングリストを使いながらコンタクトを取っていきたくと思います。委員長さん、カウンセラーさんには個人的に奨学生から何か困ったこと、生活、学習のことで書き込みしてもらったら誰かが答えてやろうという風になってくれたら、結びつきができると思います。

去年21名の新規採用でお世話クラブをお願いする件で、河合前委員長に苦勞をかけました。本年度は私からお世話クラブのお願いがあった場合は協力お願いします。クラブには大きな負担はかかりませんのでできるだけ引き受けてください。引き受け頂いて本当に1年困ったと思うクラブはなく、受けてよかったなと思っているように感じます。優秀な学生が増えレベルが上がっています。ご迷惑はかけないと思いますのでお願いします。

大丸カウンセラー

奨学生の割り当ては今までは留学生の数が3割、寄付額が7割でしたが、寄付額の多い地区の要望が多く、留学生の数が1割、地区全体の寄付額が4割、個人の寄付額が5割という比率に変えました。当地区の寄付額は昨年度4番目でした。

神谷委員長

米山奨学事業豆辞典を会員さんに配布しています。ぜひ読んで下さい。PRをお願いします。これからも米山事業をよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

2005～2006 IM7組
H17年10月29日(土) 本会議

- ・開会点鐘：泉大津ロータリークラブ松内会長
 - ・『君が代』斉唱
 - ・『ロータリーの歌』斉唱
- 財団学友：前田佳代さん



- ・歓迎の挨拶：泉大津ロータリークラブ会長 松内暉郎

プロ野球の日本シリーズも思ったよりも早々と終わりました。世の中、全て秋になってまいりました。本日は第7組の各クラブの皆様方、大変お足元が悪い中をインターシティーミーティングに多数ご参加いただき、ホストクラブを代表いたしまして心から歓迎を申し上げます。また、平尾ガバナーを始め歴代のパストガバナーの皆様方、三軒ガバナーエレクト、ガバナー補佐および地区役員の皆様他、多数ご臨席賜りまして本当にありがとうございます。心から御礼を申し上げます。ただ、誠に残念なことに本日、ゼネラルリーダーをお願いいたしておりました成川パストガバナーは所用がございまして、本日欠席をされておりますので、中島パストガバナーに代役をお願いしております。どうか、皆さんご了承いただきたいと思ひます。



さて、皆様方には今回のプログラムをご覧いただきまして既にお気付きのことと思ひますが、敢えて、IMのテーマを「親睦」ということにご案内いたしました。今回は会員相互の親睦をメインとして開催をさせていただきます。近年、各クラブにおいては会員数の減少で大変苦勞されております。また、IMの参加者も大変少なく、このような機会になんとかしたいと思ひ、このIMを最近では珍しく懇親を中心として活気のあるものにしたと思ひ、開催をさせていただいております。まず、財団学友のお二人の方にチャリティーコンサート。そして、その後に懇親会。この二つをメインにしたいと思ひます。何分、このようなことは初めての試みでございますので、皆様方には何かと不行き届きな点が多々あることと思ひますが、なにとぞ楽しく過ごしていただき、親睦を深めていただければと思ひます。誠に簡単ではございますが、これにて歓迎の挨拶とさせていただきます。

- ・ ご来賓の紹介：嶋田IM担当委員長
 ガバナー：平尾 安寧 様
 パストガバナー：大丸 様
 ガバナーセレクト：三軒 久義 様
 ホストクラブの泉大津RCパストガバナー：中島 治一郎 様(ゼネラルリーダー)
 小島 哲 様
 ガバナー補佐：櫻本 主税 様 萬野 様
 地区の副代表幹事：林 孝次郎 様
 地区のロータリー - 財団奨学金委員会委員長：岩本 行弘 様
 GSE委員長の坂本 順一 様、
 地区ロータリー財団奨学金委員(学友担当)川端 建夫 様
 地区米山奨学事業委員長の神谷 尚孝 様
 地区米山奨学事業委員：松下 光春
 地区職業奉仕委員長；桃田 孝彦 様
 地区職業奉仕副委員長：角谷 弘司 様
 地区職業奉仕委員：松尾 満 様
 地区職業奉仕委員：丸山 信仁 様



- ・ 祝電：「2005～2006年度、第7組のIMの御盛会、御成功を心より御祈り申し上げます」
 国際ロータリー第2640地区パストガバナー、成川 守彦 様

- ・ ガバナー挨拶：平尾 安寧 様

IM7組の皆様、雨の中ご苦勞様でございます。先日、地区として最大の行事、地区大会が成功裏のうちに無事終わりました。最後まで多くの会員が残っていただきまして、ホストの海南東RCとしては本当に喜んでおります。本日は泉大津RCのホストでIMが開催されます。IMは、インターシティーミーティングの略称で、この第一の目的は近隣クラブと近隣クラブの会員の皆さんとの親睦と友愛を深めることにあります。この後、懇親会も御用意して下さっております。まず、ロータリーは親睦から始まるということであります。全体会議に先立って新入会員のセミナーを開いていただき、職業奉仕委員長と共に分かりにくい職業奉仕について、分かりやすく委員長始め、皆さん方から御説明をいただき、ロータリーの理念というものを理解していただけたらと思うものでございます。また、ロータリー財団、米山記念奨学会の部門別会議、さらに、この本会議後、小島哲パストガバナーのお話の後、国際奉仕の華というべき財団学友のコンサートがございます。最後まで楽しんでいただきまして、実りある一日としていただきたいと思います。ありがとうございました。



・ゼネラルリーダー代行挨拶：中島 治一郎パストガバナー

皆さん、こんにちは。ガバナーからのお話がありましたように、成川パストガバナーは今、和歌山県の病院協会の会長をしておられまして、県から急遽召集がかかって、どうしても外せないということで、代行ということで、ガバナーからの要請を受けまして、今日お話をさせていただきます。先ほど泉大津RCの会長から話があったように今回のIMは近来あまりない内容で進みたいということでございました。7組のクラブの会長さん、幹事さんの会で御要望があって、こういう風になったということでございます。今日、ここにご参席の方の中で、おかしいという方もおられると思います。終わってみましたら、なかなか良い歩みだったと、おっしゃっていただけるようになるという風に思います。今日のこの案内のパンフレットにもございますように、IMのテーマというのは超我の奉仕で、今年度のテーマでもございましたが、7組だけが親睦ということになっています。奉仕と親睦というのはロータリーの両輪だといわれておりますが、もう一つの輪の親睦の方を主テーマでという風になりました。親睦について、私がここで何かを解説しないといけない必要はさらさらございませんので、これは実践あるのみでございます。この後、始まります懇親会には是非、100%ご出席いただきますと、今日のテーマが完結しないわけでございますので、ここでこの会が終了したらお帰りなるということがございませんように、お願いを申し上げたいと思います。パーティーだけ来られる方もございますので、今の人数よりもかなり増えて、今日は楽しい親睦会をもてるという風にご期待を申し上げて次第でございます。



このIMというのは、元々IGFという風に申しておりました。ご存知の方もいると思います。インターシティー・ジェネラルフォーラムという風の名前でやっておりました。フォーラムというのは討論会とかいう意味でございますから、勉強中心にございまして、後は親睦ですが、主は勉強ということになっておりました。それがIMということに変わりました。インターシティー・ミーティングですから、都市も同じでなくてよく、近隣の都市も、もっと離れた都市でも良いんですが、違う所に住んでる人が一緒になって、うちはこういう風にやってるけど、あなたの所はどうやってるかとお話をしてもらう機会を設けるということが一つでして、これが勉強になるわけでございます。後は親睦をはかっていただくということで、IGFのときよりは親睦中心のミーティングになってきたわけでございます。そういう経緯から申しますと、今日

の会も一度やってみる価値があるのではないかと思うわけです。皆様方も是非、この後の懇親会では楽しくご談笑いただきまして友好を深めていただきたいと思います。ガバナーもおっしゃいましたように、まず親睦があって、そこでご相談したうえで世の中の為にひとつやってみようやないかということで奉仕活動もはかどるわけでございます。今日はそういう意味でも楽しいときを皆さん方と過ごさせていただきたいと思っております。

このIMのもう一つの利点というのは部門別会議というのがございまして、先ほどこれもガバナーさんから説明ございましたように財団や米山記念奨学会のIM単位の会合というのは非常に意義がございまして、本地区が今までに日本の中で34地区ございますが一人あたり寄付額が、米山も財団も3位を下がったことがないと思います。だいたい、1位か2位か、悪くても3位。昨年もロータリー財団が全国で一人あたり寄付が3位。昨年は私がガバナーを務めたんですけども、財団へのご寄付に関しましては、もう、おしりをたたかとか強制するとかは一切やめまして、いかにロータリー財団には素晴らしいプログラムがあるかっていう解説だけをさせていただくことにしました。そして、それを実施するにはご寄付が、お金が必要だからということでお願い申し上げたんでございますが、結果としては日本で一人あたり3位のランクが確保できたわけでございました。もう、この地区の皆さん方の志の高さには頭が下がる思いであります。今日も先ほどの前田さんが歌のリーダーをやって下さいましたが後でまた、懇親会のときに聞かしていただきます。佐々由佳里さんがピアノを弾いて下さいます。たくさん優れた財団の奨学生を排出しております。これの後、懇親会と申しましたが仲良くなる前に財団の奨学生のOBの活躍と申しますか、勉強の成果を聞いていただきまして、私達は良い仕事をやったなという風に御感じいただきたいというのも一つの狙いでございます。前田さんも佐々さんも単にロータリーへ歌ったりピアノを弾きに来るだけでは、もちろんございませんで、もう非常に幅広くコンサートを開いて下さいまして、特に若い世代、子供さん相手にお金も満足に取らないでコンサートを開かれて、いわゆる文化を開くという意味で一生懸命、ご奉仕して下さいているわけで、これも彼等がやはり、この地区の皆さん方のご援助でロータリー財団の奨学生として学べたということに対してのご恩返しのおつもりをもっていただいていると思います。そういったことも含めまして、お感じをいただきたいなと思っている次第であります。演奏が終わりましたら、ちょっと、お酒も出まして皆さん方と語り合いたいと思っておりますので、その点、今日のこのIMの成果を上げるべく、どうぞ皆さん方、楽しい時をもったら成果が上がるべきでございますから、そのような時間をもてるように過ごしたいと、このように思っております。ありがとうございます。

・出席の報告：高寺 壽 登録委員長

地区役員	11名
高石ロータリークラブ	11名
忠岡ロータリークラブ	9名
高師浜ロータリークラブ	22名
和泉南ロータリークラブ	18名
大阪金剛ロータリークラブ	16名
羽衣ロータリークラブ	16名
和泉ロータリークラブ	17名
泉大津ロータリークラブ	37名
IM7 組合計	146名

・次回のホストクラブ挨拶：高石ロータリークラブの奥野会長

高石ロータリークラブの奥野でございます。次年度のIM7組のインターシティーミーティングをホストさせていただくこととなります。次年度はたまたま、高石ロータリークラブが創立40周年を迎える年になっております。ロータリー第2世紀のインターシティーミーティングのあり方を考えて一生懸命、務めさせていただきますので皆さんのご協力よろしくお願いたします。

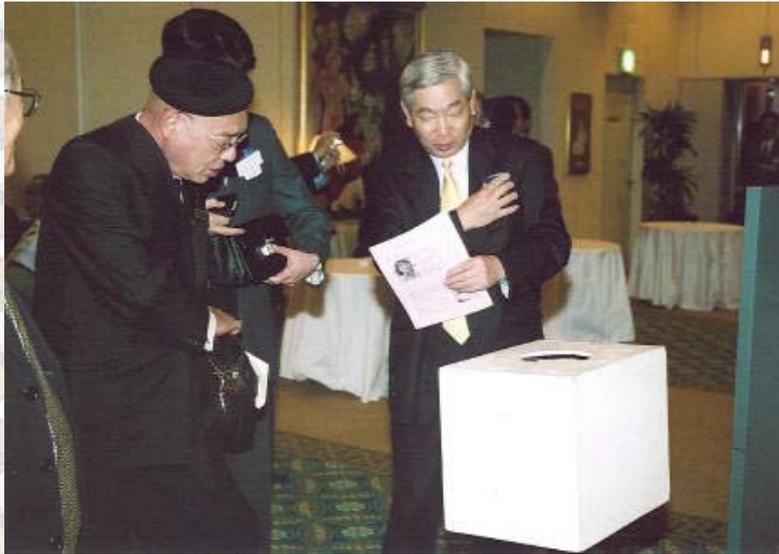


・閉会の点鐘：泉大津ロータリークラブの松内会長
あまりにも早く終わりましたので申し訳ございません。来年から、このような徹を踏まないように皆さん方、十分、色々研究していただきたいと思います。とりあえず、点鐘させていただきます。

[← HOME →](#)

財団学友によるチャリティコンサートと懇親会

・会場入口のチャリティボックス



・挨拶：城村 芳英 IM担当副委員長

本日は、親睦を中心にロータリー、またIM7組の活性化、活力を再認識していただき、会員増強につながればと思っています。

最後まで、ロータリーを楽しんでください。

IM第7組チャリティコンサート

ホスト 泉大津ロータリークラブ



・ロータリー財団PR：
小島 哲 パストガバナー

・財団学友の紹介

佐々 由佳里 さん

京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専修卒業

国際ロータリー財団奨学生として、オーストリア・ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽院に留学。

現在、神戸女学院大学音楽学部助教授、日本演奏連盟・日本ピアノ教育連盟・岸和田文化事業協会各会員、岸和田市文化財団評議員、岸和田市在住。

前田 佳世 さん

大阪音楽大学大学院歌曲研究室修了。

国際ロータリー財団奨学生として、ドイツ・ドレスデン国立音楽大学大学院に留学。

現在、田辺ソリストン・日本シューベルト協会各会員、ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団団員、大阪音楽大学助手、田辺市在住。

・今日、お二人の演奏を聞いていただいて、「よかったな」と思われましたら、是非財団への寄付をお願いします。



チャリティコンサート

前田 佳世 さん

金子みすず童謡歌曲集「ほしとたんぽぽ」より

- ・わたしととりとすずと
- ・たいりょう
- ・つち
- ・わらい
- ・ほしとたんぽぽ

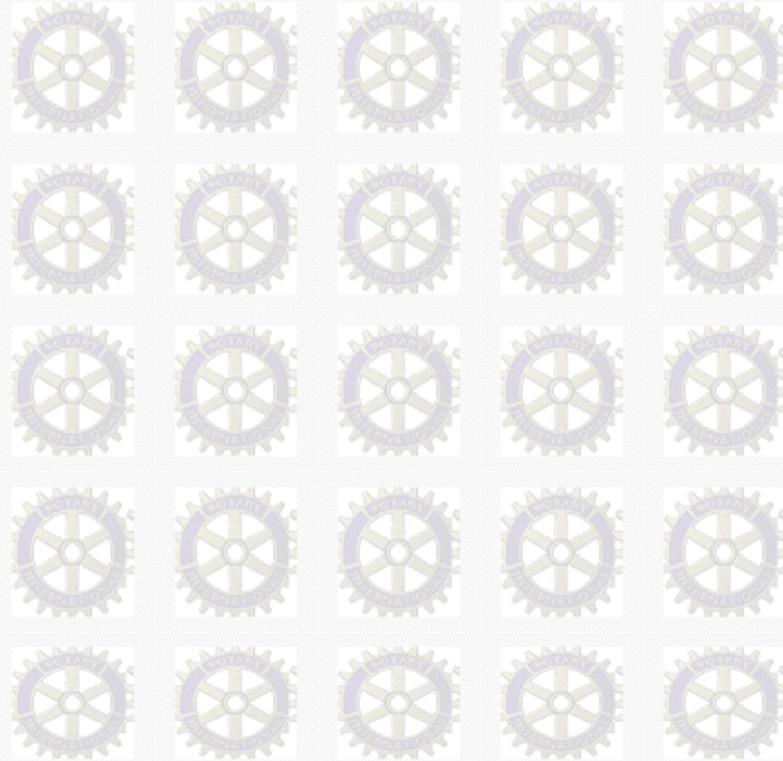


佐々 由佳里 さん
(ピアノ ソロ)

ショパン 幻想即興曲

ノクターン嬰八短調(遺作)

モーツァルト オペラ「フィガロの結婚」より
”とうとう時が来た”





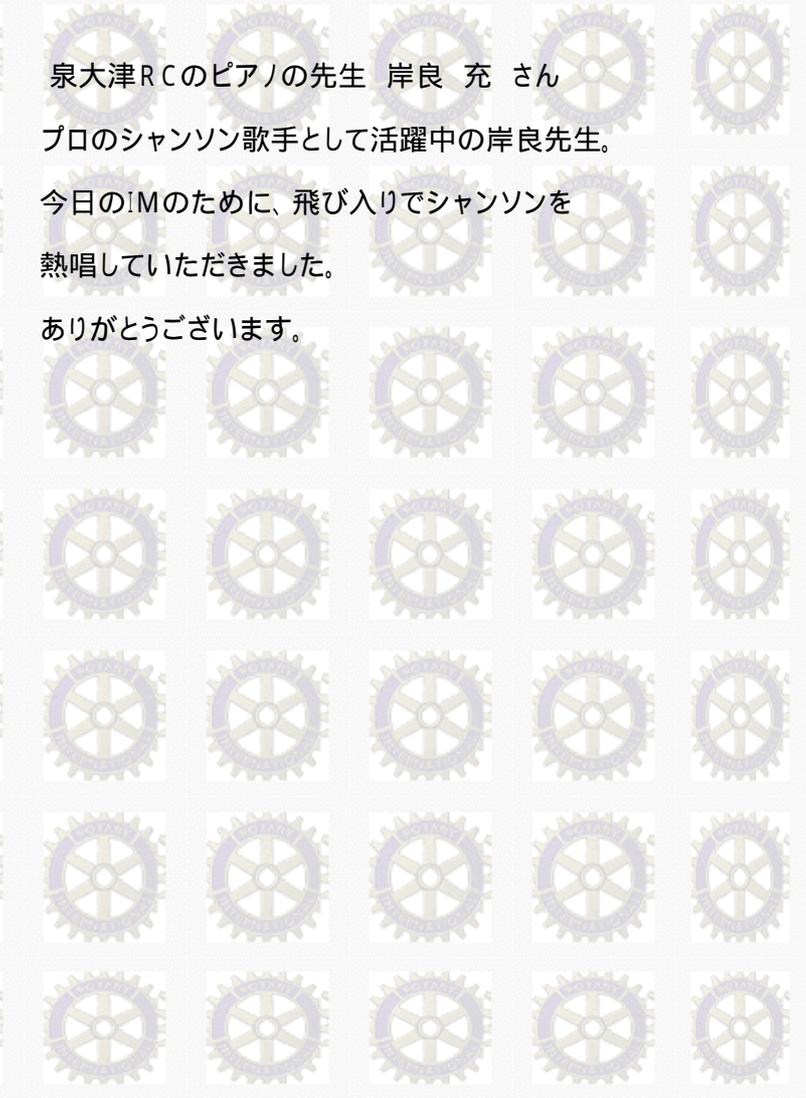
BEGIN 涙そうそう



いよいよ、懇親会の始まりです。
平岡 正巳 パストガバナーのご発声で、
声高らかに「乾杯！」



泉大津RCのピアノの先生 岸良 充 さん
プロのシャンソン歌手として活躍中の岸良先生。
今日のIMのために、飛び入りでシャンソンを
熱唱していただきました。
ありがとうございます。



平尾ガバナー

佐々由佳里さんの伴奏に、「聖者の行進」を熱唱



本日のチャリティ 金126,000円也を
「パキスタン地震への義援金」として、地区に寄贈。
嶋田IM委員長より平尾ガバナーへ



閉会の挨拶 深井 喜一 ホストクラブ副会長

地区役員、IM7組の皆様への謝辞を熱き想いで語る深井副会長。

いつもより、言葉も滑らかに「成功裏に閉会できました……。」



最後まで和やかに、
ロータリーソング「手に手つないで」

